

2018-2019 ガバナー月信

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 3



BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう

国際ロータリー第2510地区 2018～2019年度 ガバナー 小 山 司

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512
E-mail: rid2510@nifty.com <http://rid2510.org>

2018-2019年度国際ロータリーのテーマ
「インスピレーションになろう」



国際ロータリー第2510地区
2018-2019年度地区目標

——— 持続可能な絶え間なき変革のスタート ———

1. 組織を活性化しよう

- (1) 会員の維持、増加の推進
- (2) 女性会員の増強
- (3) クラブ役員、地区委員への若手登用の推進

2. ロータリーの認識・理解を深めよう

- (1) 会員研修の充実・強化
- (2) クラブ相互間、グループ相互間等のコミュニケーションの活発化
- (3) ガバナー月信の内容充実、電子化の推進

3. 地域社会との関わり合いを深めよう

- (1) 人道的奉仕活動の推進、ロータリー財団補助金の活用
- (2) 青少年活動の支援・強化、地域社会との連携
- (3) 広聴活動の推進

CONTENTS

●ガバナーメッセージ	1	●米山奨学生のご紹介/米山記念・ロータリー財団寄付	12
●国際協議会報告	2	●ハイライトよねやま	13
●ガバナー補佐研修および地区チーム研修報告	3	●ロータリーコーディネーターNEWS	14
●厚真町ランタン祭り・応援バスツアーを企画して	4	●例会は人生の道場	15
●2018-2019年度「タイ検証ツアー」の報告	5	●地区カレンダー(3月・4月)	16
●札幌ライラックRCチャーターナイト報告	9	●出席率・会員数	17
●第9グループIMを開催して	10	●文庫通信	18
●新会員のご紹介	11		



水と衛生月間 — 第2510地区水事業タイ検証ツアーに参加して思ったこと —

国際ロータリー第2510地区

2018-2019年度ガバナー **小山 司**
(札幌RC)

下半期に入り、1月には米山奨学会評価委員会、ガバナー補佐会議、RLIのDL研修セミナー、国際奉仕・VTT検証ツアー、2月には札幌ライラックRC加盟認証伝達式、学友交流会・帰国報告会、第9グループ(登別)と第8グループ(浦河)のIMと、当地区の行事は目白押しとなりました。これらすべての機会に参加させていただき、本年度のロータリー活動が実りある成果を挙げつつあることを確認させていただきました。

中でも2月1日に開催された札幌ライラックRCの認証状伝達式は感動的でした。地区の13年ぶりのチャーターナイトとあって、多数の参加者を得て盛大に開催されました。それに先立ち、1月17日には岩見沢ネクスト衛星クラブの新たな創立が認可されています。地区にとって、いずれもロータリーの拡大・増強に繋がる壮挙といえます。それぞれのスポンサークラブである札幌南RCと岩見沢RCの大きな功績として高く評価できると思います。

さて3月は「水と衛生月間」です。本年度の国際奉仕・VTT委員会の水事業を主とした事業検証のため、1月27日より1月31日まで、第2510地区国際奉仕委員会の谷口正樹委員長はじめメンバー28名でタイ東北部のノンカイ県とアムナート・チャルン県を訪問してきました。詳細は今月号の月信に谷口委員長の報告が掲載されていますのでご一読ください。

タイでの水事業は20周年を迎えたということで、1月28日はRI3340地区のガバナー主催の20周年記念夕食会に招かれ、RI3340地区メンバーと懇親を深めることができました。この地域での井戸や浄水設備の設置、その設備の維持管理と人材の育成などの貢献に対して絶大なる謝意が表されました。この水事業の20年の歴史については、4月号で千歳セントラルRCの田口廣会員にまとめていただくようお願いしてあります。

私も家内と共に今回のタイ検証ツアーに初めて参加させていただきました。行く先々の学校や総合病院で大歓迎を受け、タイの人々のはじけるような笑顔と目の輝きを目の当たりにし、ロータリーの奉仕の意味を実感し、深い感動を覚えました。現在、安全な水不足の影響は、全世界の人の40%に及んでいると言われています。この驚くべき数字は、世界的な人口増加と都市化、そして地球温暖化といった要因によって、さらに大きくなることが予測されています。

それと比較し、日本は世界の中でも最も水に恵まれた国で、上水道のインフラ整備が行き届き、衛生管理も徹底されています。日本は、中緯度・温帯に位置して、アジアモンスーン圏に属しています。列島の中央部は起伏に富んだ急峻な山岳地形となっており、豊かな森林に覆われて、豊かな水資源の供給源をなしているからです。ロータリーで「水と衛生」が6つの重点分野の一つになっているにもかかわらず、日本の地区やロータリークラブで今一つ関心が薄い要因は、上述した日本の恵まれた自然条件にあると言えます。

世界的に水不足が深刻な問題となる中で、日本では、潜在的な問題をはらんでいるものとして「仮想水(バーチャル・ウォーター)」の概念に注目されます。仮想水とは、食料の輸入の際に、その食料の生産にともなう必要となった水を「間接的に輸入」と捉える考え方です。今後、世界的に肉食の需要が高まると、食料生産にさらに多くの水が使われることになります。日本は食料自給率39%(カロリーベース)で、食料の多くを海外から輸入しているため、仮想水の概念に基づくと、水についても海外にその多くを依存していることになります。

食料消費パターンがこのまま続くと、2025年までに世界人口の実に3分の2が、水ストレス(水供給が逼迫している状態)のある国に暮らすことになると言われてしています。そうすると、貴重な水資源をめぐる紛争が激化するリスクが高まります。正に水問題は、人類全体が共通のビジョンを持ち、その解決に全員で努力する必要がある重要課題であると言えます。そのビジョンが2015年に現れた「持続可能な開発目標」すなわちSDGs(Sustainable Development Goals)です。エス・ディー・ジーズと読みます。

国連の全加盟国(193国)によって採択されたSDGsは、2030年までの15年間で極度の貧困・不平等・不正義をなくすために達成すべき17の目標を掲げています。その目標の一つに、水問題について「すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」ことが定められており、これに基づき世界の国々が一致協力して、使用水量の削減、水質浄化、人だけではなく動物や植物を含めた総合的水資源の管理、下水設備の導入に取り組むことになっています。それぞれの目標が具体的なターゲットで構成されていることから、ロータリーの掲げる6つの重点分野の奉仕活動を計画するうえでも参考となる内容となっています。SDGsのターゲットの内容を是非ご参考ください。



国際協議会(サンディエゴ)に出席して

国際ロータリー第2510地区

2018-2019年度ガバナーエレクト **福田 武男**
(千歳RC)

1月13日(日)から18日(金)の6日間にわたり、サンディエゴ空港から車で15分くらいのところにある大きな軍港に面したグランド・ハイアット・サンディエゴにて、2019年度の国際協議会が開催されました。

雪害によるフライトの運休のことも考えて成田で前泊し、また時差ぼけ解消のためロサンゼルス一泊経由で、ようやく3日目にバスでサンディエゴに入りました。カリフォルニアは滅多に雨は降らないという固定観念がありましたがやはり冬は少し降るようで、この研修の間は殆ど曇り雨で、サンディエゴはまさに観光意欲を削ぐような講習会日和の少し肌寒い一週間でした。

13日はホテルの入り口にて、石黒慶一RI理事(2017-19)、三木明RI理事(2018-20)、北清治TRF管理委員(2016-20)、高野孫左エ門RI研修リーダー(2018-19)、山崎淳一RI研修リーダー(2019)、佐藤芳郎RI研修リーダー(2019)、松本祐二SAA、RI日本事務局の中井啓介室長、クラブ・地区支援室コーディネーターの尾畑知洋さん、そして奥様方たちに温かい拍手で迎えて頂き、まずはホッと致しました。

サンディエゴに到着した13日は、登録と夕方からの歓迎レセプションで始まり、世界の各国から538名のガバナーエレクトとその配偶者の総勢1,000名を超える人たちの研修がよいよ始まりました。

この6日間の研修の間に配偶者も含めた全体での本会議が7回同時通訳で行われ、日本からのガバナーエレクトは全体会議以外では2つのグループに分かれ、それぞれファシリテーター(上記の方々)によって9回の分科会が開催され、インターナショナルな分科会が1回、同時通訳によって開催されました。

多くのパストガバナーの話や過去の数年間の国際協議会の報告を見ますと、今まではたいへん厳しい研修が行われていたようで私もその覚悟で行きましたが、我々の国際協議会は日数も6日間と少なく、1日の拘束時間も9時から5時半くらいと、全く予想とは違って予習をしなければならぬといった負担を感じることもありませんでした。そして毎晩、何らかのパーティーや食事会があり、特に水曜日は午前中で終了し、夕方には待ちに待った同期会が寿司屋を借り切って開催されストレス発散、大いに盛り上がりました。最終日の金曜の夜

は、「また会う日まで～晩餐会」、2020年6月にハワイでの再会を誓ってお開きとなりました。

最後に次年度から変わる「戦略的中期目標」について記載します。

2014-2019年まで5年間続いてきたRIの3つの戦略的中期目標は、2019年7月からは改められ、これからの5年間は以下の4つとなります。

1. 大きなインパクトをもたらす
2. 参加者の基盤を広げる
3. 参加者の積極的なかかわりを促す
4. 適応力を高める

そして2019-2020年度のRI会長テーマは・・・

ROTARY CONNECTS THE WORLD

ロータリーは世界をつなぐ





千歳でガバナー補佐・地区チーム研修セミナー開催

「ロータリーの未来を語ろう」福田ガバナーエレクトが地区目標を説明

国際ロータリー第2510地区
次年度地区代表幹事

村田 研一（千歳RC）

国際ロータリー第2510地区2019-20年度ガバナー補佐研修セミナーと地区チーム研修セミナーが2月16日、千歳市内のANAクラウンプラザホテル千歳で開催されました。福田武男ガバナーエレクト（千歳RC）が1月に出席した国際協議会の様子を報告するとともに、次年度の地区目標「自分を見つめ直し、若者を支援し、ロータリーの未来を語ろう」に基づき、リーダーシップ研究会セミナーの開催など具体的な取り組みについて説明しました。セミナーの後、懇親会も開かれ、参加者同士がテーブルを囲んで親睦を深め、福田ガバナー年度スタートに向けて有意義な1日となりました。

セミナーは午前がガバナー補佐、午後には地区委員長も加わり、次期地区幹事などを含めて約60人が参加しました。

ガバナー補佐研修では小山司ガバナーが冒頭あいさつ。地区におけるガバナー補佐の役割の重要性を指摘した上、「次年度は日本ロータリークラブ創設100年の締め半年。活発な活動で飛躍してほしい」と参加者に呼び掛けました。

続いて登壇した福田ガバナーエレクトは、1月13-18日に米国サンディエゴで開催の国際協議会に出席した感想、RIの戦略計画やビジョン声明、マーク・ダニエル・マローニー会長エレクトの方針と第2510地区目標を冊子にまとめ、それとは別の要約「ガバナー補佐の年間スケジュールと役割」と合わせて説明しました。

ビジョン声明の四つの中期目標について「以前のものより何となくイメージしづらい」としながらも、地区目標に沿った具体的な取り組みでは、ロータリーリーダーシップ研究会（RLI）セミナーの積極開催、米山記念奨学生への支援、地区機関誌「ガバナー月信」の充実、ローターアクトの参加促進などを挙げ、「ロータリーを学ぶ機会や、ロータリー活動の理解を広げるようにしたい。『思い切って変えなさい』ということが大きな方向性なので、何とかやり遂げたい」とガバナー年度への決

意を示しました。

この後、地区研修リーダーの安孫子パストガバナーの他、地区研修委員の羽部パストガバナー、嵯峨パストガバナー、武部パストガバナーがロータリー財団の重要性やガバナー補佐の役割について講話。含蓄のある一つ一つの助言に参加者が認識を新たにしました。

地区チーム研修では、小山ガバナーが「ロータリーの具体活動を実践し、質を担保するのは委員会活動の展開」と述べ、委員会活動の重要性とともに、活動そのものがロータリアンの人材養成にもつながっていることを強調しました。

また、福田ガバナーエレクトは、プロジェクターを使って次年度RIテーマや地区目標を紹介。集まった各委員長に、「第2510地区の2600人、70クラブのチームとして協力をお願いしたい」と福田年度の活動支援を求めました。

引き続き次期地区委員長らが自己紹介と活動目標を説明。高山和宏社会奉仕委員長（札幌東RC）は、昨年9月の胆振東部地震の発生を受け、被災3町の支援を引き続き検討し、3町特産品の買い物ツアーや地元イベントへの積極的な参加を通し、被災地との交流を深めていく考えなどを示しました。





厚真町ランタン祭り・ 応援バスツアーを企画して

国際ロータリー第2510地区
地区社会奉仕委員長 災害対策委員長

高山和宏 (札幌東RC)

北海道胆振東部地震の被災地訪問と災害支援について、昨年12月までの活動状況を中間報告として、ガバナー月信2月号で報告させていただきました。

その活動のなかで、毎年2月上旬に厚真町で開催しているランタン祭りのことを厚真町宮坂町長よりお聞きする機会がありました。一時は祭りの中止も頭に浮かんだそうですが、厚真町ランタン祭り実行委員会では、被災地として下を向いてばかりられない、これを復興への足掛かりにしようと同年通りの実施を決めたそうです。今年で19回目を迎えるランタン祭りは、震災後に初めて実施される厚真町民あげてのお祭りで、2月2日に実施されることとなり、ロータリークラブとしてできる限りの支援をさせていただくことにしました。

ロータリークラブとしてどんな協力ができるか検討するなかで、第12グループの清水ガバナー補佐より、現地に最も近い第12グループ4クラブ(白老・苫小牧・苫小牧東・苫小牧北)としては、できる限りの協力をするという方針で一致しているとの力強いお言葉をいただきました。後日、苫小牧東ロータリークラブからは、クラブに厚真町在住の会員がいることもあり、ランタンづくりに必要なバケツやろうそく等の備品購入費用を寄付してはどうかと提案を受け、当地区に寄せられた義援金の一部を活用させていただくこととしました(1月25日寄付)。この支援は地区主導ではなく、クラブ独自で被災地と情報交換を行い、その情報をもとに具体的な支援活動の企画・実行に当たり、それを地区委員会がサポートするという理想的な形で進められたのは嬉しい限りです。

次に災害対策委員会では、資金面以外で支援できることはないか、検討してみました。いろんな意見があるなかで、やはり、みんなで現地に足を運び、町民の方々と一緒に祭りを楽しみ、親睦を深めることが一番ではないか、という結論に至り、応援バスツアーの準備を進めることにしました。

この企画の調整役として、戎谷災害対策委員にはバスの手配やバスルートの検討、当日の食事(厚真名物のジンギスカン)の手配など現地と調整するため、事前に札幌から現地へ足を運んでもらい、実施への準備が整いました。

準備を進める一方で、遠方のクラブ会員の参加は難しく、真冬の寒さや夕方からのイベントで夜遅くに帰宅することを想定すると、どれだけの会員が参加してくれるのだろうか、一抹の不安がありました。

しかし、バスツアーの申込締切が近づくにつれ、多くのクラブ会員からの申込書が届き、最終的には14クラブ90名弱の参加となり、余市～札幌～厚真、岩見沢～栗山～厚真、白老～苫小牧～厚真の3ルートでバスツアー実施となりました。

当日は快晴に恵まれ、夕暮れからのランタンの点灯式、キラキラと輝く星空のもと屋外での特製ジンギスカンに舌鼓をうち、多くのロータリアンやそのご家族は地元の方々とも触れ合い、寒さの中でも地元の子供たちの元気に遊ぶ姿に勇気をもらい、楽しい時間を過ごすことができました。サプライズで、多忙なスケジュールのなか、福田ガバナーエレクトと村田次期地区代表幹事もご夫婦で現地に駆けつけて下さいました。

19時過ぎからの「亥」の干支文字焼きやフィナーレの2000発の花火打上の頃には寒さで足の指の感覚がなくなるようでしたが、真冬の澄み切った空に輝く花火は、復興を目指す町民の方々にたくさんの笑顔と元気と勇気を与えてくれたようでした。

今後も引き続きロータリーらしい支援活動とはどういうものか、各クラブからご意見をいただきながら、実行に移してまいりたいと考えております。





2018-2019年度 「タイ検証ツアー」の報告

地区国際奉仕・VTT委員会

委員長 谷口正樹

日頃より地区国際奉仕活動にご理解とご協力いただき誠にありがとうございます。

今年度の国際奉仕・VTT委員会としての事業検証のため2019年1月27日から1月31日までの日程で小山ガバナを団長としてメンバー28名で今年度RI2510地区事業実施地域を訪問してきました。

1月27日千歳空港からバンコク、国内線を乗り継ぎウドンタニ空港、そして約1時間バスでノンカイ市まで移動、国内線の遅れもありホテル到着は夜中となってしまいました。

翌28日は10カ所の事業を訪問するため早朝バスにて出発し、全員で行動しました。

1. 浄水器メンテナンス事業 実施校「Ban Wang Yang school」
事業主催 小樽RC、小樽銭函RC、長万部RC 3クラブ共催
2. 浄水器メンテナンス事業 実施校「Ban Na Hee Nukhro school」
事業主催 江別西RC、岩見沢RC、栗沢RC 3クラブ共催
3. 浄水器メンテナンス事業 実施校「Ban Kaibokwan Pontan Wittaya school」
事業主催 札幌北RC、札幌西北RC、札幌手稲RC 3クラブ共催

4. 浄水器メンテナンス事業 実施校「Ban Prao Nua school」
事業主催 室蘭RC、室蘭北RC、苫小牧北RC 3クラブ共催
5. 浄水器メンテナンス事業 実施校「Ban Wang Yang school」
事業主催 砂川RC、千歳セントラルRC、静内RC 3クラブ共催
6. 図書館事業 実施校「Choom Chon Ban Puak school」
事業主催 室蘭東RC、登別RC、苫小牧RC 3クラブ共催
7. 図書館事業 実施校「Dong Charoen school」
事業主催 深川RC、羽幌RC、留萌RC、札幌西RC 3クラブ共催
8. 図書館事業 実施校「Had Kham Ball school」
事業主催 江別RC、岩見沢東RC、様似RC 3クラブ共催
9. 図書館事業 実施校「Aksorn Adul school」
事業主催 札幌南RC、新札幌RC 2クラブ共催
10. 図書館事業 実施校「Muang Bang school」
事業主催 札幌はまなすRC、函館RC 2クラブ共催





全員で10カ所すべての検証を終えるため、現地小学校を訪問時に子供たちと十分に触れ合える時間が取れなかった事は残念でしたが、予定通りノンカイ地区での検証を終わらせ、ウドンターニに移動し、RI3340地区のガバナー主催の夕食会に出席し、RI3340地区メンバーと懇親を深めました。

翌29日は、ノンカイにある職業訓練校の講堂にて、市長及び副市長をお招きし、奨学金の授与式を行いました。

1. 奨学金事業 実施校「Nongkhai Boy's Home」
事業主催 岩見沢東RC、札幌清田RC、三石RC 3クラブ共催
2. 奨学金事業 実施校「Nongkhai Vocational college」
事業主催 札幌手稲RC
3. 奨学金事業 実施校「Royal King School」
事業主催 札幌手稲RC

授与式に引き続き、VTT事業実施校に訓練機器の贈呈式も行われました

1. 職業訓練機器贈呈事業 実施校「Nongkhai Vocational college」
事業主催 札幌東RC

すべての授与を終え、当地区主催の「理美容職業訓練事業」の教室及び訓練の授業を視察し、その際ガバナー令夫人及び熊澤PGが実際のモデルとなってヘアカット・シャンプー・セットを受けられ、まさに体を張った検証をさせていただきました。子供たちのリボ利用技術は昨年よりも一段と進んでいました。職業訓練校にて検証を終了し、学校にてランチを取って、翌日の検証地域である「アムナートチャルーン県」へ向けてバスで6時間程移動し宿泊地であるムクダハンのホテルへ昨日と同じように夜になってから到着しました。

最終日30日、今年度RI3350地区バンコククロントイRCと共同で財団グローバル補助金を利用し、歯科診療台を寄贈するなどの国際奉仕事業を展開している地方の総合病院を訪問しました。

1. 水事業(新規浄水器5台)

実施場所 「Huataphan Hospital」

事業主催 滝川RC、札幌RC 2クラブ共催



病院では、Dr及び職員からこの病院が地域において重要な施設であることの説明を受けたのち、子供を対象とした「歯磨き教室」を見学、その際子供たちへ歯磨き用品200セットを手渡しにてプレゼントしました。この子供たちが健康に育っていくことを願うこの病院を後にしました。この病院にて、全ての検証を終了し、4時間程バスに揺られ「コンケー」の空港よりバンコクへ向かい、そして深夜の飛行機にて帰国の途に就きました。ツアー中、大きな事故もなく移動距離が長いにもかかわらず体調不良を訴える人もなく無事検証ツアーを終えましたことを、参加された皆様に感謝し改めてお礼申し上げます。また今年度においては、34のクラブより事業費として合計2,460,000円を支出いただき、VTT事業も含めて16の事業を展開いたしました。事業に参画いただいたクラブの皆様へ深く感謝いたします。改めて「報告書」を作成し、それを事業の報告とさせていただきます。

最後に、国際奉仕事業は相手側ロータリークラブとの信頼の上に成り立っています。今年度もタイ



RI3340地区・RI3350地区の協力があったの事業でありました。彼らへ深く感謝し、今後もこの絆を絶やすことはできないと思っております。なぜならこの地域に暮らす子供たちが私たちロータリアンの奉仕を待っているからです。「きれいな水・多くの本との出会い・整備された学校」から健康な社会人そして国際人が育っていくものと私は信じています。ありがとうございました。





2018-2019「タイ検証ツアー」参加者（敬称略）

小山司G・小山恵美子(札幌RC)・熊澤隆樹PG(小樽RC)・福井敬悟・渡辺美代子・濱本光一・曾我大介・曾我千鶴(札幌手稲RC)・谷川一郎(余市RC)・光川眞量(札幌はまなすRC)・若原秀明・児島義明・岩崎修一(札幌東)・西谷秀樹・燕美雪(留萌RC)・出村知佳子・鈴木隆也・斎藤昌一・大浦隆司・サパーブクンブーワナット(札幌北RC)・久保隆(札幌西北RC)・富岡豊(静内RC)・寺岡秀一・細田克実(江別西RC)・江本勝典(岩見沢RC)・出口弘史(三石RC)・田口廣(千歳セントラルRC)・谷口正樹(滝川RC)



札幌ライラックRCチャーターナイト報告

開催日：2019年2月1日（金）18:30~20:30
開催地：プレミアホテル-TSUBAKI- 札幌

札幌ライラックRC
会長 朴 炫 珍

平成最後の札幌雪祭り目前である2月1日に、RI2510地区で70番目のロータリークラブ「札幌ライラックRC」の誕生を知らせるチャーターナイトが開催されました。小山司ガバナーを始め、近くは札幌市内、遠くは函館市から120名を超えるロータリアンが札幌ライラックRCの誕生を祝いにお越しくださいました。年々クラブとロータリアンの数が減少している中、当地区では約十年前の札幌大通公園RCの誕生以来久々の新しいRCの誕生であったこと、国内では二番目、地区内では初めて作られた衛星クラブが独立を成しえたとのことで、多くの注目が集まったと思います。

チャーターナイトは国際ロータリー加盟認証状伝達式と記念祝賀会で構成され行われました。札幌幌南RCの衛星クラブだった本クラブが一つのRCとして独立するまでご指導をくださった羽部大仁パストガバナーが札幌ライラックRCの特別代表として点鐘し、伝達式が始まりました。羽部パストガバナーの来賓紹介と本クラブの会員紹介の後、小山ガバナーによる加盟認証状伝達式、更に挨拶を頂戴し、続いて塚原房樹パストガバナーの祝辞、親クラブである札幌幌南RCからの記念品贈呈が行われました。本クラブの会長として私が登壇し、お礼の挨拶をさせていただきました。最後に羽部パストガバナーの二回目の点鐘により、伝達式が終了しました。休憩をはさんでから隣の会場に移り、札幌幌南RCの深貝亨会員から本クラブ特別代表補佐としての挨拶をいただき、福田武男ガバナーエレクトの祝杯のご発声で、祝賀会がスタートいたしました。祝賀会中、ロータリアンの皆様から沢山のお祝いと励ましの言葉をいただき、本クラブの川端幹事がお礼の言葉

を述べました。最後に、福井敬悟ガバナーノミニーによる締め乾杯後、祝賀会に参加して下さった皆さまと一つの輪になりロータリーソング「手に手つないで」を合唱して閉会となりました。

チャーターナイトにご出席できなかった方々のため、この場を借りて、札幌ライラックRCの紹介を行わせていただきます。本クラブは上述したように4年前に11名のメンバーで設立された札幌幌南RCの衛星クラブを元としています。衛星クラブの設立後、親クラブの下でロータリーの理念や活動などについて学ぶことができました。そして昨年の11月に20名以上の会員が集まり、衛星クラブ設立時からの念願だった独立を成しえました。独立したとはいえ、ロータリアン歴が短い若い会員が多いクラブのため、未熟なところが沢山あります。もしよろしければ、本クラブの例会に出席していただき、色々ご助言をしてください。例会は、毎月の第一・第三金曜日の18時30分から札幌駅北側にあるエルプラザで行っております。今までにあまりなかった新しいスタイルの例会かと思しますので、ぜひご体験の上で助言をくださると、クラブがもっと発展していくと思います。また、時間や会費が会員の負担にならないようにクラブを運営していますので、周辺にロータリーの活動に関心がある方がいらっしゃいましたら、ぜひ紹介をしていただけますようお願い致します。

最後に札幌ライラックRCに多くの関心を示して下さった全てのロータリアンの先輩方に感謝の意を示したいと思います。本クラブのこれからの行き先に、先輩方のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



第9グループのIMを開催して

登別RC

会長 石井 憲 一

今回は『企業における防災・危機管理の再点検～進化するBCP～』と題して、テレビ番組に出演され著書も多く出されている、防災・危機管理アドバイザーの山村武彦先生にご講演をお願いしました。このテーマに決めたのは、昨年の胆振東部地震で、今も被災された方は復興に向けて大変な思いをされています。そんな中、中小企業の多くはBCPを作成していないと思います。この講演が皆様のお役に立てればと思います。

山村先生のご講演は専門性の高いお話でしたが、とても分かりやすくお話されました。

BCP作成に当たっては、目標を具体的に定める事、企業ごとに、部署ごとに、個人でも防災チェックシートを作る。そして玉石混交情報を、重要度・緊急度で仕分けする「情報トリアージ」ができていないとだめである。また、社内・顧客・仕入れのキーパーソンと発災直後に連絡を取れる仕組みを作る事が重要であるとお話しされました。東日本大震災の時にBCPが役に立った燃料卸会社は、緊急連絡体系が出来ていたおかげで売り上げが2倍になった。また、災害後の経営、企業に何が出来るのか、新潟地震時の菓子製造業ブルボンの実践例などを紹介しました。

大地震や災害は先だと思っている人は、防災は形式的にしかできない、明日来るとしてやる事。命を守る訓練、命を守る行動をとる。認知心理バイアス（凍りつき症候群）を取り込んだ実践的防災訓練が必要。自分の命は自分で守る、家の中でも安全ゾーンをつくる。程よい距離感で互いに助け合う「近助」、「企業防災隣組」が大事であるとお話しされました。

最後に、防災・避難機能を備えた登別市鷺別小学

校の事例をご紹介いただきました。正に防災小学校であり、バルクLPガスボンベはいざという時に災害に強い。これから、いろいろな場面でこの登別市鷺別小学校を紹介したいと話されました。

来賓でお招きしました小笠原春一登別市長からも『当市においては、平成24年の大停電の経験もあり、昨年の地震とブラックアウトには役立てることができました。その一つが、鷺別小学校の立て替え建築です。その建築には、斎藤ガバナー補佐から防災バルク設置の強い要望がありました。今も各地から小学校の視察に来ております。』と鷺別小学校の事をお話されました。

小山ガバナーからの講評は『地震は身近なものとして防災意識を高めないといけない。山村先生のお話にありました、認知心理バイアス（凍りつき症候群）は動物全部にあるもの。出来るだけリスクに応じた行動を訓練することが大事です。そして一番我々にできることは、自助・公助がありますが、コミュニティーが基本、先生の言っていた近助です。ロータリアンが音頭を取ってそのコミュニティーを作っていければと思います。今日のお話は極めて充実した講演でありました。専門性の高いお話ではありましたが、最大の収穫になりました。素晴らしいプログラムと、登別の皆さんに感謝します。』以上のような言葉を頂き大変光栄に思います。その後、懇親会では第9グループ各クラブのロータリアンが懇親を深めました。

ロータリー皆様のご協力と友情に感謝申し上げます。ありがとうございました。



新会員のご紹介

(敬称略)



千歳RC
マリックヴァンダイバンボーデ
12月20日入会
ホテル



千歳RC
神野 幹士
1月10日入会
事務機器販売



室蘭北RC
宮本 英樹
1月22日入会
コンビニエンスストア



留萌RC
村松 博士
2月1日入会
消化器内科医



岩見沢RC
藤波 大道
2月7日入会
浄土真宗

岩見沢ネクストロータリー衛星クラブ誕生のお知らせ

この度、「岩見沢ネクストロータリー衛星クラブ」が岩見沢ロータリークラブをスポンサーとして誕生いたしました。RI理事会より2019年1月19日付で正式な認可を受け、すでに11名の会員により活発に活動を開始しております。新クラブの誕生をお祝い申し上げるとともに、同クラブの発展を心から祈念いたします。

岩見沢ネクストロータリー衛星クラブのメンバーを紹介いたします。



佐々木 啓司
高等学校



中振 克己
広告代理業



高橋 慶樹
団体-農業協同組合



片山 博史
自動車整備



長谷川 毅
電気工事



前川 英介
有線放送



山口 弘晃
焼肉店



前野 雅彦
米穀類販売



馬場 雅弘
カイロプラクティック



田村 秀樹
弁護士



佐藤 直輝
通信販売業

米山奨学生の紹介 YONEYAMA SCHOLARSHIP



ポジティブな 留学生活のために

南宮 眞
(中国)

北海道大学・函館亀田RC

人生は誰かと出会うことで他の方向に変わることがあります。4年前の学会で、現在指導して頂いている先生と初めて出会ったことがきっかけとなり、函館の北海道大学水産学部で半年間の交換留学をしました。そしてさらに学びたいと思い、私は日本への留学、博士号取得を決意し、去年から北海道大学で勉強するようになりました。今はメダカの卵黄形成に関する受容体の機能解明をテーマとして研究しています。日本での生活は色々な課題への挑戦でした。新しい環境で新しい研究を始め、生活に適応し、様々な人々と交流をしました。そして、今年からは米山奨学生になり私の生活も一

年前とは少し変わりました。世話クラブの例会やロータリーのイベントに参加し、前より幅広く人々と出会える機会ができました。2年間の生活で困難もありましたが、考えてみると幸せな挑戦をしてきたと思います。今はきっと2年前の私より成長していると思います。これから残りの一年間も色々なことに挑戦しながら楽しく生活したいと思います。そして、日本留学の間に出会った様々な方からポジティブな影響をいただきながら私の人生もポジティブな方向に変わることを信じています。

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者

札幌RC	中田 隆博	会員 (1回)	1月29日
小樽RC	山田 雅敏	会員 (3回)	1月23日
小樽RC	津田 哲哉	会員 (3回)	1月23日
浦河RC	蘇田 又栄	会員 (5回)	1月23日

米山功労クラブ

札幌RC	(37回)	1月29日
------	-------	-------

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

メジャードナー

札幌RC	佐々木正丞	会員(レベル2)	1月30日
千歳RC	瀧澤 順久	会員(レベル1)	12月27日
七飯RC	上野 一義	会員(レベル1)	12月12日

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

札幌RC	松原 良次	会員 (1回)	1月30日
森RC	名倉 豊	会員 (1回)	1月29日

ポール・ハリス・フェロー

札幌RC	田中 伸哉	会員	1月30日
森RC	平井 克宏	会員	1月29日



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

ハイライトよねやま

2019.2.13

Vol. 227

2019 学年度米山奨学生の選考を全地区で実施

2019年4月採用の新規米山奨学生の面接選考が12月上旬から1月下旬にかけて、全国34地区の各選考委員会によって行われました。指定校からの申込者1,384人のうち、学部・修士・博士課程奨学金と地区奨励奨学金を合わせた616人(枠)が合格予定です(今後、他の奨学金合格等による辞退・繰上げによって人数の変動あり)。このほか、現役奨学生の延長制度であるクラブ支援奨学金、2019

学年度から正規プログラムとなった渡日前採用型の海外応募者対象奨学金、台湾および韓国の米山学友会が候補者(博士号をもつ上級研究員)を推薦する海外学友会推薦奨学金の合格予定者も報告されています。

2019学年度の奨学生数は、新規合格者と昨年度からの継続奨学生を合わせた850人(枠)となります。

ホーチミンの学友グループが奉仕活動

昨年12月16日、ホーチミンの米山学友グループが第16回奉仕活動を実施しました。ベトナムにはまだ正式な学友会はありませんが、ホーチミンでは学友たちが、年に数回の奉仕活動を続けています。

今回の訪問先はホーチミン市内の視覚障がい者福祉施設、An Binh ホーム。以前にも同ホームで奉仕活動をしたことがあり、施設の子供たちと2年ぶりの再会を果たしました。子供たちから口々に「視覚障がい者マラソン大会でメダルを獲得した」「大学を卒業して就職することができた」などの嬉しい



報告を受け、成長を実感する訪問となりました。寄付金約3万円のほか、調理器具やシャンプーなどの日用品を



寄贈しました。

当日は、学友4人のほか、同学友グループが奨学支援しているHUTECH大学のベトナム人学生3人も活動に参加。「ベトナムの若者にも、私たち学友グループの活動に参加してもらおうことで、奉仕の精神を身に付けてもらえたら」と、チュオン トゥイ ランさん(2006-07/大宮北東RC)は期待を込めて語りました。

寄付金速報 — 下期も順調にスタート —

1月までの寄付金は前年同期と比べて0.8%減(普通寄付金:0.3%増、特別寄付金:1.4%減)約850万円の減少となりましたが、直近5年間のうちでは1月に入金された単月の寄付額では一番多い金額となり、下期も順調に良いスタートを切ることができました。

1月は普通寄付金(クラブで決定した金額×会員数分でお送りいただく定期寄付)下期分の納入が主となります。今年度は1月末までに全クラブの75%、1,696クラブからご納入いただきました。今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

Rotary
Zones 1 & 2 & 3



コーディネーター 2019年3月号 NEWS

発行：Zones 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

■「2019年国際協議会が開催されました」

2019年1月13日から19日まで、アメリカのサンディエゴで国際協議会が開催されました。この3月号がお手元に届くころは、各地区のガバナーエレクトは国際協議会での成果を新年度に生かすべく、PETSや地区研修・協議会の準備に大わらわでしょう。

2019年は3年ごとに開催される規定審議会の年でもあります。2016年の規定審議会では、「柔軟性」のキーワードの下、例会の開催頻度や態様、そして出席について決める「例会と出席」、会員の入会資格を決める「会員身分」、この二つのカテゴリーにおいて、それぞれのクラブ細則で決めれば標準ロータリークラブ定款に反していても細則の方が優先するという、まさに驚きの改正がなされたことはいまだに記憶に新しいところです。「柔軟性」を実現したクラブはどの程度あるのでしょうか。また、その成果は上がっているのでしょうか。

2019年国際協議会で国際ロータリーのジョン・ヒューコ事務総長は「革新性と柔軟性」というテーマで講演し、「ロータリークラブが将来どのようになっているか、少し想像してみてください。」「あまり深く想像力を働かせる必要はありません。このようなクラブは既に存在していますから。」として、「家族も気軽に参加でき、移動型の例会時間と例会場所を採用したクラブ、「組織的に地元のローターアクトクラブとインターアクトクラブを活動に参加させる」ようにしたクラブを紹介しています。さらには「パスポートクラブ」という新しいコンセプトのクラブを紹介し、このクラブでは例会を開くのは年間僅かに6回で、オプションとして例会がない月に交流行事を開いているということです（このクラブでは財団に毎年1000ドル寄付するか、ロータリークラブや地区内のNPOと一緒に少なくとも40時間の社会奉仕を行わねばならないそうです。）。

「柔軟性」は一面では既に世界標準になっているということでしょうか。もしそうであれば、それが既存のロータリークラブの活性化にどの程度の成果をもたらしたかについて、もっと実証性のあるデータを示してほしいと思います。そして是非とも先端的な実践をしているクラブの会長や幹事の考えを聞きたいものです。地区やゾーンで希望者を募り、新しい試みを実践しているクラブの訪問ツアーを企画するのも一案かもしれません。

ガバナーエレクトは、今、ロータリーの最も新しい情報に接した存在でしょう。彼ら彼女らは新年度に向けて新しいコンセプトで会員を鼓舞し、クラブを元気にすることを任務としています。私たちコーディネーターは今後ともその手助けをし、ロータリーの発展のために役立ちたいと考えています。

第3ゾーンロータリーコーディネーター補佐
滝澤功治（神戸須磨RC）

第2510地区 ロータリー情報委員会



Facebook アカウントをお持ちの方 参加しませんか？

(Facebookのアカウントを作成して)

第2510地区ロータリー情報委員長
堀元 雅司

地区ロータリー情報委員会では、第2510地区内限定の交流グループを作りました。参加は、第2510地区内のロータリークラブ会員限定としています。

このグループは、非公開となっておりますので、登録された方のみ閲覧やクラブの情報等をアップする事が出来ます。どんどん、自分のクラブの取り組みを投稿して情報の共有はいかがでしょう。

Facebookアカウントをお持ちの方は、下記のメールへアカウント名かメールアドレスをお知らせください。折返しで、ご招待メールを送らせていただきます。

rotary-info@shinsei.com

ロータリー探訪



例会は人生の道場

第2510地区職業奉仕委員長

玉井 清治

(函館亀田RC)

先日、深川ロータリークラブ職業奉仕委員長様から「最近のロータリーはボランティアに傾きすぎている気がする。大切なものを見失ってはならない。」と例会でのスピーチを依頼されました。

弱者に涙する人道支援は素晴らしいことで、ロータリーの魅力でもあります。しかし、それだけでしょうか？それと同等の素晴らしいものがあるのではないのでしょうか？

飢えに苦しんでいる子供を目にしたとき、自分の持っている「パン」を微笑んで渡したいが、自分も空腹では心から渡す気持ちになれません。職業人で構成されているロータリーは、奉仕(見返りを求めない支援)することと同時に「自らの事業所の持続的な繁栄」を達成させるプログラムを持っており、それがクラブ例会であり、個人奉仕である職業奉仕をクラブとして支援する実践の場なのです。

国立パストガバナーが提唱された「ロータリーの心」と小山ガバナーの提唱された「ロータリーを学ぶ」。これを真剣にクラブの例会プログラムに取り入れれば、昨今減少しつつある会員数にも歯止めがかかり、クラブが活性化することは間違いありません。

さて、ここで我々は、何のために例会に出席しているのか考えてみたいと思います。例会を通じた会員同士の切磋琢磨によって、真の親睦が形成されています。従って、例会出席はロータリー運動を形成するための必要条件であり、更に密度の高い事業上の発想の交換や、親睦を深めるためには、頻りに例会を持つことが必要です。米山梅吉翁が述べた「ロータリーの例会は人生の道場である」という言葉を、今一度思い起こす必要があります。職業奉仕の理念が忘れ去られ、ボランティア活動一辺倒となりつつある昨今は、当然の結果として例会が軽視される傾向が強まっています。ボランティア活動を実践するだけならば、例会などしてもなくてもいいという考えにもなるような気がします。形式的な例会に参加して立派な食事をするよりも、ボランティア活動をする方がよっぽど増しだという解釈がまかり通ってくるような気がします。こういった現実が、理事会が認めた委員会活動を例会出席の補填として認めようという考え方を生み出しました。ロータリー運動の必要条件である例会出席と、数ある奉仕活動の一形態に過ぎないボランティア活動が同列に、いや逆転して考えられることに私は悲しい思いになります。しかし、それが良くないと非難することは簡単ですが、その一方で私たちが職業奉仕の理念形成や人格形成の場として、有意義な例会を開いているかどうかを反省する必要があります。僅か1時間の例会で、それも会長の時間・幹事報告・委員会報告・誕生祝いなどのセレモニーで15分、卓話で30分、肝心の会員

同士が事業上の発想の交換をする時間は、食事時間を含めて15分しかなく、例会は完全に形式的なものになっているのが現状でしょう。クラブの会員は、事業に従事すべき大切な時間を割いて例会に出席しているのです。事業で得られる利益をはるかに超える利益が、例会出席で得られてこそ、例会に出席する意味があると思います。はたして皆さまのクラブは、こういったメリットを例会参加者に与えているのでしょうか。例会出席によって大きなメリットを得るといふ、ロータリアンの特権を享受するために例会に出席するか、それとも義務としていやいや例会に出席するかによって、会員の「成長」に大きな差が現れ、長くクラブに在籍するか、退会届けが出されるかは例会運営で大きく左右いたします。また、最近例会数を少なくしたクラブは例会時間(海外のクラブでは2時間が主流)を増やし、内容密度を濃くしていくことも再考する必要があるように思います。

毎回、ホームクラブの例会に出ることが原則ですが、仕事や健康上の理由でそれが不可能な場合のために、メイクアップの規定があるのはご存じのとおりです。会員には世界中のどこのクラブでもメイクアップをする権利があります。これは、全てのクラブは、定められた場所、曜日、時間に、必ず例会を開かなければならないことを義務付けられていることを意味します。従って、やむを得ない事態以外は、みだりに例会変更や休会をすべきではないと思います。メイクアップをする会員も、「メイクアップをしたら、たまたま例会をしていなかった場合は、メイクアップをしたものと認める」という規約を逆手にとって、わざわざ休会のクラブをめざして、サインだけして帰るといふ、恥ずべき行為が日常的に行われているのが現状です。地区大会においても、せっかく大会実行委員会が1年以上前から汗水流して段取りをしたにもかかわらず、クラブ紹介の「や～」のあと、ゾロゾロ帰る姿もたいへん失礼な話で、ロータリアンらしからぬ行為のように思います。私も第2650地区や第2740地区の地区大会にも自主参加したことがありますが、このような現象はありませんでした。大会開催地から距離が遠いクラブがあるのはどこの地区も同じです。

クラブは会員にメリットを与えるように例会運営を抜本的に見直し、会員は自らのクラブでも、他クラブのメイクアップでも、真摯な態度で例会やロータリー活動に参加するよう心がけ、例会・奉仕活動の実践・レクリエーションを楽しんでこそ、ロータリー人生を真にエンジョイできるのではないのでしょうか。

〈参考文献：D2680 田中毅PG著：炉辺談話〉

地区カレンダー (3月・4月)

3月 水と衛生月間	
1 (金)	
2 (土)	
3 (日)	
4 (月)	
5 (火)	
6 (水)	
7 (木)	
8 (金)	
9 (土)	2018-19年度会長エレクト研修セミナー(千歳)
10 (日)	地区財団セミナー・米山セミナー(千歳)
11 (月)	
12 (火)	
13 (水)	
14 (木)	札幌東RC創立60周年記念式典
15 (金)	
16 (土)	地区RYLAセミナー(札幌)
17 (日)	
18 (月)	
19 (火)	
20 (水)	
21 (木)	春分の日
22 (金)	
23 (土)	第4・5グループIM(札幌)
24 (日)	
25 (月)	
26 (火)	
27 (水)	
28 (木)	
29 (金)	
30 (土)	第10・11グループIM(函館)
31 (日)	

4月 母子の健康月間	
1 (月)	
2 (火)	
3 (水)	
4 (木)	
5 (金)	
6 (土)	
7 (日)	
8 (月)	
9 (火)	
10 (水)	
11 (木)	
12 (金)	
13 (土)	
14 (日)	地区研修・協議会(千歳)
15 (月)	
16 (火)	
17 (水)	
18 (木)	
19 (金)	
20 (土)	深川RC創立40周年記念式典
21 (日)	洞爺湖RC創立50周年記念式典
22 (月)	
23 (火)	
24 (水)	
25 (木)	
26 (金)	
27 (土)	
28 (日)	第6グループIM(余市)
29 (月)	昭和の日
30 (火)	

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2018.7.1	2019.1.31	増減	内女性	
1	深 川	3	33	33	0	2	83.43
	羽 幌	3	46	45	-1	2	66.67
	妹背牛	2	7	7	0	0	85.71
	留 萌	4	33	34	1	3	74.26
	小 計		119	119	0	7	77.52
2	赤 平	3	27	27	0	2	68.12
	芦 別	3	31	31	0	2	73.56
	砂 川	4	40	41	1	1	92.71
	滝 川	4	93	95	2	4	74.00
	小 計		191	194	3	9	77.10
3	美 唄	3	26	27	1	0	86.72
	江 別	4	32	34	2	1	78.73
	江 別 西	4	30	30	0	4	86.60
	岩 見 沢	4	74	87	13	0	88.87
	岩見沢東	3	17	17	0	2	77.33
	栗 沢	3	19	18	-1	1	88.00
	栗 山	3	25	27	2	5	83.33
	当 別	3	27	29	2	0	81.44
	小 計		250	269	19	13	83.88
4	札 幌	4	121	133	12	2	97.65
	札幌はまなす	3	16	18	2	2	72.00
	札 幌 北	3	40	44	4	4	85.56
	札幌モーニング	3	34	33	-1	0	73.62
	札 幌 西	3	50	49	-1	9	76.22
	札幌西北	3	34	33	-1	3	79.40
	札幌手稲	2	37	39	2	4	84.48
	小 計		332	349	17	24	81.28
5	札 幌 東	4	125	123	-2	0	96.89
	札幌清田	3	13	13	0	4	100.00
	札幌幌南	3	66	56	-10	3	98.72
	札幌真駒内	3	23	25	2	7	100.00
	札 幌 南	3	88	92	4	2	96.08
	札幌大通公園	2	14	14	0	4	57.14
	札幌ライラック	2		20		6	81.00
	新 札 幌	3	25	27	2	5	85.81
小 計		354	370	16	31	89.46	
6	岩 内	3	20	20	0	1	92.00
	倶 知 安	3	36	34	-2	3	66.80
	小 樽	4	71	74	3	5	75.69
	小 樽 南	3	65	65	0	4	81.55
	小樽銭函	3	22	24	2	1	82.00
	蘭 越	3	9	9	0	0	89.00
	余 市	4	43	42	-1	5	84.50
	小 計		266	268	2	19	81.65

会
員
増
減
数
・
1
月
出
席
率

クラブ数	70クラブ
期首会員数	2,544人
当月末会員数(女性)	2,636人(173人)
増加会員数	92人
当月平均出席率	80.64%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2018.7.1	2019.1.31	増減	内女性	
7	千 歳	3	69	77	8	9	80.07
	千歳セントラル	3	39	42	3	8	70.63
	恵 庭	4	49	53	4	3	75.52
	北 広 島	3	16	15	-1	0	83.34
	長 沼	1	17	16	-1	3	81.25
	由 仁	2	7	8	1	1	68.75
	小 計		197	211	14	24	76.59
8	え り も	2	17	20	3	1	100.00
	三 石	1	13	13	0	0	90.00
	様 似	3	17	17	0	1	77.45
	静 内	4	72	70	-2	4	86.00
	浦 河	3	26	28	2	3	80.00
	小 計		145	148	3	9	86.69
	9	伊 達	3	64	64	0	1
室 蘭		4	32	34	2	2	56.97
室 蘭 東		4	34	38	4	3	86.90
室 蘭 北		1	46	47	1	2	69.92
登 別		4	25	25	0	1	76.00
洞 爺 湖		2	9	9	0	0	100.00
小 計			210	217	7	9	77.60
10	函 館	4	76	82	6	1	74.33
	函館亀田	3	43	42	-1	4	74.89
	森	3	35	35	0	0	74.00
	七 飯	4	12	12	0	0	62.50
	長 万 部	2	10	11	1	0	54.50
	函館セントラル	4	23	23	0	2	84.78
	小 計		199	205	6	7	70.83
11	江 差	2	10	10	0	1	75.00
	函館五稜郭	3	54	54	0	0	81.86
	函 館 東	4	45	44	-1	8	70.35
	函 館 北	2	16	19	3	0	86.84
	北 斗	4	12	12	0	0	58.30
小 計		137	139	2	9	74.47	
12	白 老	3	30	30	0	3	81.30
	苦小牧	3	59	62	3	3	80.33
	苦小牧東	4	27	27	0	4	86.46
	苦小牧北	4	28	28	0	2	95.30
	小 計		144	147	3	12	89.64
合 計		2,544	2,636	92	173	80.64	

※岩見沢RCには岩見沢ネクストロータリー衛星クラブの会員数11名(内女性会員0名)を含む

文庫通信

(375号)



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー精神の中核である「奉仕の理念」(The ideal of service)は時代と共に深化してきました。アーサー・F. シェルドンが提唱した「He profits most who serves best」は、初期のロータリーの奉仕理念の原点であり、ロータリーの一つのモットーとして今も受け継がれています。この標語の意味について、シェルドン自らが書いた「The meaning of the motto」という著作を、田中毅PDGが先ごろシェルドン監修の月刊誌「Business Philosopher」から発見しました。「The Gate」と共に紹介し、併せてこの著作の田中毅PDGの翻訳と、シェルドンに関する多くの著作の中から最近の2編をご紹介します。

シェルドン特集

〔下記申込先：ロータリー文庫〕

◎「The meaning of the motto (The Business Philosopher 1920年12月号)」

Arthur Frederick Sheldon [1920] 8p (シェルドン出版社) ※

◎「モットー「He profits most who Serves best」の真意」

アーサー F. シェルドン 著 [2019] 6p (田中 毅 訳) ※

◎「The Gate (The Business Philosopher 1922年11月号)」

Arthur Frederick Sheldon [1922] 2p (シェルドン出版社) ※

◎「The Gate 入口」

アーサー F. シェルドン 著 [2019] 3p (田中 毅 訳) ※

◎「シェルドンの森を巡る旅 経営学に基づく奉仕理念」

田中 毅 源流の会 [2017] 136p ※


◎「シェルドンのすべて」

田中 毅 [2019] 12p ※

上記 ※印はデジタル化されている資料です。


*資料の検索は文庫ホームページから <http://www.rotary-bunko.gr.jp>

ロータリー文庫通信



ロータリー文庫の資料から、毎月資料を厳選して発信しています。
詳細はこちらへ

ロータリー文庫検索



2万点余りある資料をインターネットで検索することが出来ます。
詳細はこちらへ

ロータリー文庫について



・文庫について
・HP利用方法
・運営委員会から



トップページには三つの窓があります。上記矢印「HP利用方法」をクリックしていただきますと、「ホームページの利用方法」というPDFが表示されます。

ここには1999年2月ホームページ開設以来、データベース化された全ての資料の検索方法が書かれています。尚、過去の文庫通信一覧については、左窓の「詳細はこちらへ」をクリックしてください。

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15黒龍芝公園ビル3階
TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日



表紙写真

札幌市 藻岩山山頂展望台から見る札幌市内と山並み

撮影者：野口観光ホテルプロフェッショナル学院・

北海道文教大学外国語学部国際言語学科 講師 今野哲郎

お詫びと訂正：深くお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

・ガバナー月信 2月号 P9：新会員紹介

長万部 RC【誤】近藤英代 → 【正】佐藤英代



長万部RC
近藤 英代
1月10日入会
行政

→



長万部RC
佐藤 英代
1月10日入会
行政

・ガバナー月信 2月号 P8

マルチプルポールハリス・フェロー

岩見沢 RC【誤】公山公彦 → 【正】山本公彦

岩見沢 RC【誤】小林義之 → 【正】小林弘明

ベネファクター

岩見沢 RC【誤】小林義之 → 【正】小林弘明

